

# 行方市のうた ～ わがふるさと ～ に寄せて

この度制作いたしました行方市のうたは、行方地方に暮らしを築いてきた先人のみなさんが、霞ヶ浦（西浦）と北浦という日本を代表する湖、そして行方台地を刻み稲作文化を育ててきた谷津田と里山の恵みを大切に生きてきた姿を表現したものです。

西暦713年に全国に出された地誌編さんの詔みことりにより茨城県域（南西部の一部を除く）でもまとめられた『常陸国風土記』には、行方地方のすがたが生き生きと今に伝えられています。この風土記には日本人が自然を畏れ、自然のしくみを活かし、自然と共生する日本の原風景が表現されていることから、行方市のうたにも風土記の世界とところを詠み込んでいます。

また、霞ヶ浦や筑波山、あるいは行方市内の地名や場所を特定することばを使わず、人々が代々暮らしの中で大切に親しみを込めて使ってきたことばで構成することにより、個々のふるさとをイメージすることができるようにしたものです。

郷土たたずに佇む二つの湖は、活発な交流を生み先進的な文化活動を育みました。市内各地に残る祭りや史跡には、先人の郷土を想う心が映し出されています。特に、芸術や教育活動において、いにしえより多くの優れた人材を送り出してきました。麻生藩校精義館や水戸藩玉造郷校まなびやに始まる学舎の教育理念は、これからも郷土行方を発展させる人材を育てて行く大切な拠り所となります。

行方市のうたが、市民に永く口ずさまれ歌い継がれていくことにより、まちづくりの原動力となること、また、郷土を離れても、行方市で過ごした大切な思い出を甦よみがえらせ、生きる支えとなることを心から願うものです。

平成24年9月2日

行方市のうたアドバイザー

高野	顯
額賀	旭
譜久島	肇
小貫	哲夫
北枳	文子
金田	弥生

行方市長 伊藤 孝一